



サカタニ友の会 ニュース

写真で語る

店の歴史

先日、有る団体から、当社の店歴を知らず様に、



① 昭和14年頃: 中央は 創業者: 喜一郎 昭和14年頃: 幼児は義郎 父一郎は後列左2人目 番頭丁稚3人看板は現存



② 昭和27年頃: 酒卸問屋時代の店、中央に奥の土蔵迄トロッコ線路あり。事務所は高い方の棟の1階 表には空瓶が山積みだった



③ 昭和53年: 父一郎が亡くなり、相続した現在地をビルに建替へ。1階をファミマ・2階に「めん坊」を入れたが、後「集西菜」にした。

た。82才だから、所謂老人がケレなかも気になった。そして、時系列で整理してないし気が付き、昔の写真や帳簿、メモ等を整理し、それを使って「自社紹介」の心算をここに載せた。右左順で。

創業は、1913年 末2だが、現在地の東4軒目。当時本町七条西南の角に津の興借家。その津の興に祖父母共々、近の北斗町に住み勤めたが、後継ぎが幼く廃業され知津の屋号で、商売を引継いだ。そして、父 郎が小学校入学時、1918年 末2 現在地借家し移転。店の 部、酒場風にし 写真。初は私。更に神馬の銘柄と造り、弟や親戚に酒場経営を勧めた。業績上り、1942(昭17)東隣の家を購入。酒場と酒屋を分離した。酒場は、戦時中 中国酒場で営業。大繁盛した。

1955年 昭20 祖父は58才に亡くなり、父が、相続した。1949年 昭24 戦中の酒免許制度が改定、酒卸免許を得て 私は反対したが、酒問屋酒合本店写真②と名付た。その後、店の北側に、私の大親友康ちゃん(月七)名義で、いつみ屋店名酒小売店を開き、後、法人化。それが、紆余曲折を経て、現当主になる。父の時代の酒合本店は経営危機で法人化。更に他の酒卸会社に吸収され、役員で付いて行ったが冷遇され、飛出す機会を待っていた。

発行者 株式会社サカタニ 集西菜サカタニ ファミリーマート サカタニ京阪七条店 〒605-0993 京・東山区七条こころ坂 TEL 075-561-7974 URL www.sosake.jp/ Ex-Mail info@sosake.jp 月刊 発行会員新聞 編集 酒谷義郎 E-Mail yosirou@sosake.jp

第3日曜日開催9月18日(日) 定例朝9時~ 第140回 朝粥食へておシャベリ会 講演: 「こころ野 便り」 今回の、講師: 田中真弥さん

報告寄稿 高木英智様 テーマ「こころ野便り」 本日の講師は有機農業家の田中真弥さん。テーマは「こころ野便り」。



田中さんのおはあさんは畑のことを「野」と呼んでいたので、田中さんは「こころ野」や「虫や微生物も共生しているのが自然だ」ということで、畑は「こころ野」と呼ぶ。自然の摂理にしたがった農法を追求。なぜ自然農法なのか。農業の師である父は「農業や化学肥料は必要、きれいで済ませない、商売だ」と大反対するも、殺菌剤、殺虫剤、除草剤を使う農業に疑問を感じ、家族や子どもに食べさせるのにあるべきものがあるべきように。このことも4人、自然出産を提唱している人の話が大きい。役立ち、出産は医療ではなく、

その時タイシグ良。父が康ちゃん」が独立後、売却した法人「稔いつみ屋」倒産危機に。私が骨格拾った。そして、元々酒合本店のあった現在地を、父から借家して③1F ワン＆ライス サカタニを開店し、当時余りなかった酒類をワンツウ。スリースールの名を冠して実施した。2Fは、讃岐うどん店「めい坊」を出店した。父没後、相続した土地家屋を大借金ビル化。1F、コンビニは、写真ファミマ。2Fは、ついでに「めん坊」にした。オール借金の大冒険は、お客さんの方々の応援で、完済で来た。現在二階は、地域に役立つスペース 集西菜サカタニ

第16回: 七条大橋清掃活動 60分程度 ☆2016年10月7日(金) 午前9時スタート ★集合場所: 京阪七条駅西南出入口※少雨決行 ☆汚れても良い服装で 雑巾・タワシ等ご持参 作業終了後: サカタニ2F: 懇談会60分程

汚れている今の橋

架橋時の橋

年費12000円の 会員さんも増やしたいなあ!

生理現象だ、自分の力で産めるように整え、それに夫も協力をするものだと学ぶ。畑でも同じだと思ひ、自然農法といつてもただ、農業をやめただけではうまくいかず、土づくり、環境を整えることが大切で、土のことを考えるようになり、たどり着いたのが「おから」米ぬか「胡麻の油かす」の3種類の発酵肥料。捨てられてしまうものを有効活用し、循環のサイクルで使う。そのうした自然農法は試行錯誤の結果、野菜の病気の発生がほぼなくなった。畑で感じたこと、新しい発見などを「こころ野便り」として毎週コラムを書いてまわるとして500号。こだわりの野菜で作る量にも限りがあるが、買ってもらいやすい価格設定で、より良いものを目指し、毎日、おからをもらつては肥料を仕込む日々だそうです。

どんつき

立し開店した大切な日。そして10日後は、一番大好きで大切なおはあちゃん。が、突然に10日に亡くなった。 開店特売が、一段落した9日。開店のどきどきの中、来てくれ話も出来ず飛。なかつたので、祖母に会いに9日、吉田中大路町の天理教会 祖母会長へ行つた。 祖母は、幼児時代の私を、母に代わつて育てて呉れて母以上お人。たんと(多くの)お客さんが来てくれてはつて、良かったなあ。開店を喜んで呉れた。 別れ際に、開店祝いや一と、箒と手製の棧払い呉れ、ワテは貧乏で祝いはこれだけ、お前の心もこれに掃除をしなければや」と。判つてる。 翌10日、開店後初の休業日。ホットしてると電話。宇治教会にお集りの信者さんにお礼の挨拶で頭を下げ、そのママ、上げず亡くなった」との知らせ! 幼小年時代の私は、母で無く殆ど祖母きぬの手で育てられて来た。今も目を瞑ると、雨の貞教尋常小学校入学日。浮かば。婆あちゃん子驚愕! ぼつとしたらどう。シマッタ! 安心させ過ぎた! と思った。 我が家は、父の代、酒小売から「酒卸店」に代え、二回、破産寸前状態を経験、他社の傘下になったことも有る。 ▼が、その地を無傷で、孫の私が、祖父創業の酒屋を再出発させたので、長年の緊張感が、一挙の緩んで、ホッと気が緩んだのは、このことだった。 ▼今年も又、10月10日が来る。主たる事業は「ファミマ」だが、現在の集西菜の名を冠した当主、サカタニの基本姿勢は変えず、主体性維持し続ける。友の会・会員さんへの支持を戴きながら...

は私にとつて 現在地で独

ヨシイちゃん ひとりごと



日本の夜明けはこのへ

京都から

この下の段に掲載の「似てないか」の石動敬子様の文中に、「日本の夜明けは京都から」の標語が書かれていた。それを目にして、さあつと60年以上も昔の、私の青春時代が蘇る様に、頭の中に浮かんだ。

「このとんからりん」の読者で、ご近所、高齢のお方は、ご存知かも知れないが、1958年(昭27)、酒問屋をしていた我が家を飛び出し、大学も中退し、政治の世界にドブプリ。

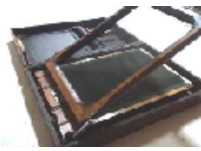
その頃、知事(嵯川)・市長(高山)や府市会議員選挙等々も、この標語を使って、熱心な応援運動をしていた。首長が「民主勢力」の都市は殆ど無かった時代である。

私が、活発に動きすぎて、松原署警備課刑事に狙われ、府市会議員選挙の時、道を歩いている時、選挙違反だと逮捕された。留置場二日。二日目投票日。投票に行かせと言ったが、黙秘だから駄目と言う。署長に「憲法で認められている黙秘で憲法で定める投票権を奪うには可笑しい」署長「の貴方を投票権侵害」でに訴えるといったら、貞教校まで、手錠をかけたまま、ジープで連れて戻れた。さすがに手錠は外されたが、刑事が横に付き、講堂「投票所」まで、「一緒に入ろうとするので、投票に秘密を侵す拒否外で待たせて、講堂」へ。投票

用紙に候補者名は書き終わつての投票箱に入れず、時を稼いだ。私の逮捕と処分必要な書面」の処理をお願いするお人が来れる迄。入口で待っている刑事のイライラ顔を、楽しく見ながら。投票日は満20歳二月後だった。その翌日、黙秘をし続けていた私は、松原署Aの仮名で当時、丸太町近く有った「京都拘留所」に送られ、検事調べを受けたが、黙秘を継続。後日、逮捕を知らされた父が検事局に来て、組織が「住所氏名」だけ検事に言えとの伝言で、住所氏名」を言つて起訴猶予で釈放された。

20日以上、そんな所に居ると、外で女性に出会うと皆超美人に見えた。その後政治運動から離れたのは、3年後、組織の嫌な面を知つたことと、父の経営していた「酒問屋」の危機が重なるように有り離れた。

このとんからりんも、家を離れて政治活動で、組織「当時は細胞と呼んだ」のガリ版で作成した「新聞発行」や「中曜会」「社研」の勉強会を報つて得た知識を思い出しながら発行したもの。まあ、若い時の苦勞の産物だ。



その影響は、今も残り、私の右手中指は太く、ペンタゴに残っている。パソコンもない時代、ガリ版印刷、ガリ切の影響で、今も変形したマである。その上、若干、老人ボケが進んで、前に書いたことを、又書いたと言われること再々。そろそろ「潮時」かと思う頃だ。

今日も朝顔は映かなかつた。風船かずらは無数の白い花をつけ、その丈も一階に届き、なお伸びんとしている。花も実も付き、葉っぱは大きくとも、胡瓜の収穫はたつたの1本だった。千成ひょうたんの花はともかく実は未だだ。狭いところに種をまいたので、このなか、栄養素不足か。我が家の中秋の寸景。この数か月、落ち着かぬ日々を過ごした。被災地みちのくへ、合唱がメインの母や病院訪問の8月、二十ヨク在住の家族5人のひとりのホームステイ、俳句講座などに汲々として、戦後70年という夏。大きくかぶさつてきたのが戦争法。安保法制)だった。あり得ない会期延長の長さも、議論の立ち往生も、ルールなど無視の暴走。すつたもんだの挙げ句のこれが採決?という子どもたちに見せられないような見せ場付き。ペテン師のインテキキみたいな、子ども

似てないか

石動敬子



孫もせつかく生まれきたのに、ごめんねえこんな国で。落胆、忸怩たる思いの、二三日というのが、丹見る月「中秋の始まりだった。シルバーク。鴨川右岸の散歩の途中、夫が呟いた。僕より先に逝ってくれろ?そしたら、何もかもいい具合にしてやれそうなんだ。え?結構長く生きろと思うけど、大丈夫?」

單身赴任も10年を越えた。江戸情緒の残るあの隅田川あたりなら住んでもいいな、と思うけれど、東京は君を受け入れるかなあ?とき。あんな?そんなあ、と思いつつ、京都という土地を思い直してみる。学生時代からだからもう、半世紀近しいのだった。灰木のりの日。ギリリと光るダイヤのような日。もあつた。大学紛争中の時計台下、合唱団BOX、女子寮の有刺鉄線。あの頃の京都はよかったなあ、という原点があった。憲法を暮らしの中に生かそう

日本「日本の夜明けは京都から」の鼓動が脈打つていたところ、70年代の初めだ。大学入学の夏、京都女子大で「日本母親大会」に参加した。著者たち」の映画に興奮した私だった。今、日本国憲法を読みなおしても色あせない。格調高く、ああ、だった、そうなの、と標を正す思いがする。今高校生、いや中学生までも法案は「違憲」であり、民主主義は、俺たちで作つていくもの、自分たち国民こそ主権があると叫び出した。嬉し、感動的なスピーチがいくつもきけた。

京都府が9月20日発表した府内の基準地価で、伏見稲荷大社近くの調査地点が前年比で26.2%も高くなり、京都府の商業地上昇率トップに躍り出た。近年急増している外国人観光客が、周辺の地域経済に活気を与えていることが要因となつた。京都市内ではゲストハウスや一般住宅を提供する「民泊」などの増加が地価を押し上げる傾向もみられ、観光が地価上昇をけん引する構図が鮮明になつている。

不動産業者の話では、売り手が少なく取引は出ていないが、呼び値は相当高い」ともいう。確かに伏見稲荷大社あたりを歩くと、外国人観光客など行きかう人たちが活況を呈している。地価上昇は景気上昇を示すので喜ばしいことではある。

しかし、かつての不動産ブームのような好景気時代と比べると、全体的に景気が違うように思う。当時は国内の個人消費が好景気をけん引していた。住宅建設も不動産取引も活発だった。過熱しすぎて不良債権を大量に出したことは反省しなければならぬ。今回のような外国人観光客頼みの景気拡大では心もとない限りだ。やはり個人消費を引き上げるために労働者の大幅賃上げ、雇用改善、社会保障充実などをすすめるながら観光産業なども元気になるバランスよい施策が求められているように思う。昨年度外国人観光客は過去最高320万人だ。東京オリピックに向けてもっと増えるという。伏見稲荷大社に限らず、全国の主だった観光地は外国人観光客が増えている。日本が将来、観光立国を目指すのであれば、もっと根本から考え直さなければならぬ。とがたくさんあるように思う。商店街だけでなく地域住民との一体感が持てるような観光地になることが大切であろう。このまま行くと観光客を迷惑者扱いにしかねない。すでに個別には地域住民との小さなトラブルが伏見稲荷大社周辺でも頻発している。この連載で観光問題は何度か触れてはいるが、どうも我が能力ではどうにもならぬ。やはり観光行政の出番である。しつかりとした将来ビジョンを国や自治体は示してほしい。観光客を何万人にするとか、ホテルが何室足らないとか数字ばかりでなく、経済効果だけでなく文化面から観光を考えないと将来に禍根を残すことになるのではないかと。現状ではこの分野の体制も人材も不足している。急がば回れである。ゆっく

稲荷山・ぶらり散策・15 越智重史

京都府が9月20日発表した府内の基準地価

で、伏見稲荷大社近くの調査地点が前年比で26.2%も高くなり、京都府の商業地上昇率トップに躍り出た。近年急増している外国人観光客が、周辺の地域経済に活気を与えていることが要因となつた。京都市内ではゲストハウスや一般住宅を提供する「民泊」などの増加が地価を押し上げる傾向もみられ、観光が地価上昇をけん引する構図が鮮明になつている。不動産業者の話では、売り手が少なく取引は出ていないが、呼び値は相当高い」ともいう。確かに伏見稲荷大社あたりを歩くと、外国人観光客など行きかう人たちが活況を呈している。地価上昇は景気上昇を示すので喜ばしいことではある。しかし、かつての不動産ブームのような好景気時代と比べると、全体的に景気が違うように思う。当時は国内の個人消費が好景気をけん引していた。住宅建設も不動産取引も活発だった。過熱しすぎて不良債権を大量に出したことは反省しなければならぬ。今回のような外国人観光客頼みの景気拡大では心もとない限りだ。やはり個人消費を引き上げるために労働者の大幅賃上げ、雇用改善、社会保障充実などをすすめるながら観光産業なども元気になるバランスよい施策が求められているように思う。昨年度外国人観光客は過去最高320万人だ。東京オリピックに向けてもっと増えるという。伏見稲荷大社に限らず、全国の主だった観光地は外国人観光客が増えている。日本が将来、観光立国を目指すのであれば、もっと根本から考え直さなければならぬ。とがたくさんあるように思う。商店街だけでなく地域住民との一体感が持てるような観光地になることが大切であろう。このまま行くと観光客を迷惑者扱いにしかねない。すでに個別には地域住民との小さなトラブルが伏見稲荷大社周辺でも頻発している。この連載で観光問題は何度か触れてはいるが、どうも我が能力ではどうにもならぬ。やはり観光行政の出番である。しつかりとした将来ビジョンを国や自治体は示してほしい。観光客を何万人にするとか、ホテルが何室足らないとか数字ばかりでなく、経済効果だけでなく文化面から観光を考えないと将来に禍根を残すことになるのではないかと。現状ではこの分野の体制も人材も不足している。急がば回れである。ゆっく

京都&東山 ぶらりピカリ

70

七条通 ⑬

七条通は、東山三十六峰の裾がスタート、其処に智山派本山 智積院の山門」がある。阿弥陀が峰の頂上に 豊臣秀吉公の墓所 写真 ②) が有る。お参りには、寺の北側、通称 おんな坂」を東へ突当たりの鳥居の奥の平地 太



市電のあった時期写真

閣担 (カクタン) に有る、事務所で代金を払う。代金、登る坂に途中にある京都女子学園 幼児」大学院)に通う美形?の千人を超える 京おんな」のお顔が見られるので、モトは取れるだろう。お金を払っても 墓所」へは石の階段を上がることになる。そうどすかーと、払っても墓所は、五百段程の 石段」の上にある。まあ、身体を鍛えられ上、貧農から太閤にまでなられた 秀吉公の強運を、爪の垢程でも、戴けると思へば、安いと思う。



話は、代わるが、京都で高校野球と言えは、直ぐに、頭に浮かぶのは 平安高校」。戦前(戦後)も何度か全国優勝をした 野球)の名門校だ。此処、10年以上、京都の代表校にもなっていない。プロ野球で活躍した。衣笠選手も平安だったと思う。新聞などで、有名同校出身者名を見ることはあるが、どうも、学校の基本方針が変化したのだから。



平らな地点」まで。今なら

私の、少年時代。「もう65年以上前の大昔、ゲーム機等はない時代、外で遊ぶしかなかった。お今や国宝の 三十三間堂・西門後ろに、小さな庭で少年野球した。本堂の アーバン」で当たれば、一弾、東の池に入れたら ホームラン」門傍の土堀の空いた穴をベンチ」。そこを追われたら、鴨川か東山。必然的 太閤担」で遊ぶ。そこへ、平安中学校の野球部が練習に来る。太閤担」から 阿弥陀ヶ峰」頂上の、秀吉公墓地に至る五百に近い石段 写真) を使って、後ろ手に組み一段 毎飛び上つて。中程にある 平らな地点」まで。今なら

市電が走った 京都を巡る

福田静二

68



植物園前の停留場

一種物園前 一落北高校前 FURUKYO DAIGAKU MAE
植物園前の停留場を
出た市電は、北大路通を東へ向かいます。車窓の両側には、商店、小さなビルが建ち並んだ北大路通りらしい街並みが続き、前方左手には、裾野を伸ばした比叡山がよく見えます。まもなく到着するのが、府立大学前」の停留場です。

京都には農学部前、同志社前と、大学に關係する停留場名があります。昭和九年で、当時は 農林学校前」、戦後改名されて 西京大学前」になりました。昭和二十四年に 府立大学前」にな



バスと一緒に 北大路通を走る市電

北へ歩いたところにある京都府立大学は、停留場名の改称どおり、いくつの変転を重ねています。明治二十八年に京都府農学校として、大覚寺の境内で授業を開始しますが、すぐ桂へ移転、大正七年に現在の場所に新築移転します。その後、京都府立農林学校と改称され、戦後になると、新制大学として西京大学となり、女子短期大学部も併設されます。そして昭和三十四年に、京都府立大学、京都府立女子短期大学部と改称し、キャンパスを下鴨に統合しました。その後、女子短期大学の閉学や、学部学科の設置、改廃が行われ、現在では約千八百人の学生が学ぶ京都府の知の拠点となっています。



府立大学前の停留場で 出会う二両の市電

現在、京都府立大学の北隣では京都府立総合資料館に代わる、京都の歴史・文化に関する学習・交流の場、京都学 歴彩館」の建設が進んでいます。その北隣は、クラシックコンサート専門の京都コンサートホールです。磯崎新の設計で、平成七年に竣工しました。さらにその隣は、京都府立総合資料館、昭和二十八年にできましたが、老朽化により今年九月に閉館しました。

これらの施設が並ぶ南北の通りは鞍馬街道で、松ヶ崎から山を越えて鞍馬方面に向かう古くからの街道でした。当時の下鴨村の集落も、鞍馬街道に沿って発展してきます。先号でもお伝えした出町と植物園を結ぶ初めての京都市バスは、この道を走っていました。その頃は、下鴨本通と呼んでいましたが、市電下鴨線が路北高校前から南へ開通すると名

酒屋で生きて
生かされて



第百一十二話

辛抱辛抱して

ヤンキー独立

前号で石油ショックの事を先に書いたが、10月1日に改装が出来上がった現在の店を移した。東側に予定した「立ち飲み酒場」は同時開業ができず西側の店で。

「ワイン&ブーズ・サカタニ」のスタート順調だった。

当時は、「酒のデスクカウンター」の殆ど無い時代。三日間開店セールで『酒・食品』の特価セールをした。沢山の方々のご来店、目標の倍以上の売上でテンテコ舞い！その最中に。祖母が来て、「おきばりや」と声をかけ吉田へ帰った。祖母は、吉田中大路町で、天理教教会会長をして



田中大路町で、天理教教会会長をして

開店特売終了で店が落つき、9日、祖母の住む教会に行った。そこに私も高校時代住んでいた「沢山のお客さんで良かったなあ」と言い、商いは飽きたらアカン！、お客さんとは、牛の涎のようのに切れなようにしなはれや」と。ハイハイそうしなはれや」と。ハイハイ10日は、宇治の部下教会に行くと知っていたので、気を付けて行きや」と声を掛け、お連れのお方があることで安心し七条へ戻った。

10日は、開店以来初めての休業日。ゴロンと座敷で寝転んでいた。

電話のベル。出ると「お婆ちゃん、宇治で死んだ！」と父が言った！ビツクリ！。前日に会い、「これで、店の汚れだけでなく、お前の心の汚れも綺麗にシイヤ！」と箒と塵取りを呉れた翌日に！

幼児から、ズくと、おぼあちやん子だった私が、祖父母が築き上げた場所で、酒屋を復活して、ホット、気が緩んだのだと思った。

祖母は、宇治教会のご参拝の信者さん方々の前で、ご参拝のお礼でお辞儀、そのママ頭を上げることなくの往生(82)した。直ぐ救急車来たが、「もう死んでる」と帰ったとか。我家は何度かの危機があつた。それを経て孫の私が、祖父母で築き上げた、酒屋をその地で復活したので、愛していた祖父に、自らの口で知らそうと思うたのでは？。キットそうだろう。

目香下の
首飾り
瀬瀬史子



夏は終わりに近づき、雨模様が続いた今年は、一雨ごとに季節が秋へと足を速め、早くも金木犀のにおいが漂うようになってきました。

夏は終わりに近づき、雨模様が続いた今年は、一雨ごとに季節が秋へと足を速め、早くも金木犀のにおいが漂うようになってきました。

「おおい」というものは、いろいろなことを思い出させてくれるのです。ふわりと漂ってきた「おおい」に、何か懐かしさを感じるものです。嗅覚をくすぐる「おおい」と人間の「記憶」との関係は、科学的にも解明されています。脳科学的にも、嗅覚は記憶の鍵となることが分かっています。

海月 (25) 月三



題を海月にしたのは、単純な理由だ。図書館の本は五冊まで借りられる。四冊は制作に関する本を持ち、あと一冊、何を借りようかと悩んでいる。分厚い本は読む気がしないし、参考書ばかりだと重過ぎる。なんせ四冊はフルカラーの大型の本なので、これにまた一冊増えるとなると、帰る気がしない。フォトコーナーをあまり見ない。なぜかという、自分の見に行けばいいし、その場へ行って体感したい。やはり写真の色と本物の色は違うし、本物の方が美しいと思っているからだ。なんと、相違当嫌な奴だ。まあ、そんな理由でフォトコーナーはスルーだった。しかし今回は、思いのほかいいのがあるではないか、自分で見に行くことができない海の世界的写真が。

私は泳ぐのが、海で泳ぐことは嫌いだ。海水が肌に合わないため足もつけられない。小さい頃はガッツで浜辺を歩いたが、今はもう、直ぐに疲れるから歩けない人間である。置きか、海の生物を知るの好きだし、小さい頃は図鑑を引張り出して見ていた。とりわけ、海月には好きだ。海月には脳が無い。心臓もない。鰓(えら)も無い。魚や恐竜が誕生するよりもはるか昔から、ふわふわと水中を漂い、生命を繋いでいるらしい。あの透明の幻想的な姿は落ち着く。クリオネが流行った時期があるが、あまり好きではない。なぜかという点、彼等のマントの様なものをパタパタ動かす動作が必ず過剰である。その点、海月には、何なんだろう？海月については、そう知っているわけではないから、何とも言えないが、脳が無いと言われる割には無駄が無く、ゆらゆら、ふわりと泳ぐ姿が好きなのかもしれない。いや、つかこうなりたいという目標なのかもしれない。最後の一冊は海月の本。(不)

リズムから「おおい」は、人間の感情にストレートに影響し、「おおい」も刻まれた記憶は薄れ、難しいことが分かつています。

「おおい」と「記憶」の関係は、時にロマンチックな描写となつて音楽の世界で使われます。昭和50年代にヒットした山口淑子さんの歌唱の「夜来香」などは、その代表的な楽曲です。

「おおい」とも「記憶」の関わりが深いです。歌のイメージが、その音楽の想像力に、その音楽からきく月下香の芳香でさえ感じられるに違いない。ハワイの踊りフラの優雅なリズムと、京都を思い出す郷愁的なサウンド。若い感性による挑戦は見事な仕上がりに思いました。秋の夜長に聞いていた一曲です。

だよわたせる白い花です。芳香の強いチーベローズで編んだ首飾りは、どんなに素敵な香りを漂わせるのでしょうか。そしてその香りは、どんな記憶を呼び戻すのでしょうか。月下香の首飾りをかけて、自分自身を想像したいが、とても切ない思いが胸に宿ります。

「おおい」は、パソソで、裸眼で入力している。元々が慌て者で、誤入力も多くなった。最近読者方にご点検戴いている。ご投稿くださった方も増えて、新聞らしくなつたかな？

▼幼少時、小学校時、体操の授業は免除され、放課後も外で遊ぶより本を読むことが多かった。六年時、戦時学童疎開で、田舎に住んだ。薪運びや農作業で体質が変わった。

▼高校時、家を継がず、新聞社に就職したいと思っていた。卒業し大学入学後、当時、家庭内に事々悩み、杜研一に入り、破防法反対を通じて政治運動にも参加した。

▼53年(昭28)7月豪雨(南紀豪雨)が和歌山県北部を襲い、その被害地貴志川町に松下京都労組の人達と救援隊を率いで参加した。

▼昼間は、町民宅の復旧作業、夜は個別宅を回り、被害者同盟の組織づくりに参加、それが出来て、集団で県庁に要望を持ち込んだりした。少し公的支援が増え、感謝された。

▼それまでに、経験した事のない喜び、満足感を味わった。その最中、8月15日、南山城大水害の被害地井手町に住込み救援していた。12月、父の店の危機から離れ、商人で今に至る。

色は違うし、本物の方が美しいと思っているからだ。なんと、相違当嫌な奴だ。まあ、そんな理由でフォトコーナーはスルーだった。しかし今回は、思いのほかいいのがあるではないか、自分で見に行くことができない海の世界的写真が。

私は泳ぐのが、海で泳ぐことは嫌いだ。海水が肌に合わないため足もつけられない。小さい頃はガッツで浜辺を歩いたが、今はもう、直ぐに疲れるから歩けない人間である。置きか、海の生物を知るの好きだし、小さい頃は図鑑を引張り出して見ていた。とりわけ、海月には好きだ。海月には脳が無い。心臓もない。鰓(えら)も無い。魚や恐竜が誕生するよりもはるか昔から、ふわふわと水中を漂い、生命を繋いでいるらしい。あの透明の幻想的な姿は落ち着く。クリオネが流行った時期があるが、あまり好きではない。なぜかという点、彼等のマントの様なものをパタパタ動かす動作が必ず過剰である。その点、海月には、何なんだろう？海月については、そう知っているわけではないから、何とも言えないが、脳が無いと言われる割には無駄が無く、ゆらゆら、ふわりと泳ぐ姿が好きなのかもしれない。いや、つかこうなりたいという目標なのかもしれない。最後の一冊は海月の本。(不)

だよわたせる白い花です。芳香の強いチーベローズで編んだ首飾りは、どんなに素敵な香りを漂わせるのでしょうか。そしてその香りは、どんな記憶を呼び戻すのでしょうか。月下香の首飾りをかけて、自分自身を想像したいが、とても切ない思いが胸に宿ります。

「おおい」は、パソソで、裸眼で入力している。元々が慌て者で、誤入力も多くなった。最近読者方にご点検戴いている。ご投稿くださった方も増えて、新聞らしくなつたかな？

▼幼少時、小学校時、体操の授業は免除され、放課後も外で遊ぶより本を読むことが多かった。六年時、戦時学童疎開で、田舎に住んだ。薪運びや農作業で体質が変わった。

▼高校時、家を継がず、新聞社に就職したいと思っていた。卒業し大学入学後、当時、家庭内に事々悩み、杜研一に入り、破防法反対を通じて政治運動にも参加した。

▼53年(昭28)7月豪雨(南紀豪雨)が和歌山県北部を襲い、その被害地貴志川町に松下京都労組の人達と救援隊を率いで参加した。

▼昼間は、町民宅の復旧作業、夜は個別宅を回り、被害者同盟の組織づくりに参加、それが出来て、集団で県庁に要望を持ち込んだりした。少し公的支援が増え、感謝された。

▼それまでに、経験した事のない喜び、満足感を味わった。その最中、8月15日、南山城大水害の被害地井手町に住込み救援していた。12月、父の店の危機から離れ、商人で今に至る。

編集後記

▼もう82歳になつた。子供時代。多分母乳で育てられた所為だが、身体が弱く、超大人しい？、子供だった私。今は、頗る元気。

▼元氣保持は、毎朝夕ワシで乾布摩擦と体操30分、最後に腕立て伏せ66回の成果。少し血圧が高いので服薬はしてるが殆ど休まず朝6時30分から、店に。

▼とんからりんは、パソソで、裸眼で入力している。元々が慌て者で、誤入力も多くなった。最近読者方にご点検戴いている。ご投稿くださった方も増えて、新聞らしくなつたかな？

▼幼少時、小学校時、体操の授業は免除され、放課後も外で遊ぶより本を読むことが多かった。六年時、戦時学童疎開で、田舎に住んだ。薪運びや農作業で体質が変わった。

▼高校時、家を継がず、新聞社に就職したいと思っていた。卒業し大学入学後、当時、家庭内に事々悩み、杜研一に入り、破防法反対を通じて政治運動にも参加した。

▼53年(昭28)7月豪雨(南紀豪雨)が和歌山県北部を襲い、その被害地貴志川町に松下京都労組の人達と救援隊を率いで参加した。

▼昼間は、町民宅の復旧作業、夜は個別宅を回り、被害者同盟の組織づくりに参加、それが出来て、集団で県庁に要望を持ち込んだりした。少し公的支援が増え、感謝された。

▼それまでに、経験した事のない喜び、満足感を味わった。その最中、8月15日、南山城大水害の被害地井手町に住込み救援していた。12月、父の店の危機から離れ、商人で今に至る。